

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	15H05718	研究期間	平成27(2015)年度 ～令和元(2019)年度
研究課題名	アウターライズ地震に備える:津波即時予測に向けた断層マッピングとデータベース構築	研究代表者 (所属・職) (令和3年3月現在)	小平 秀一 (海洋研究開発機構・海域地震火山部門・部門長)

【平成30(2018)年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○ A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

本研究は、日本海溝沖アウターライズ域で地下構造探査と地震観測を実施し、津波を生成する可能性のある断層（潜在断層）のマッピングを行い、さらに、これらの断層情報に基づき、海底ケーブル津波計データを活用した津波即時浸水予測に必要な不可欠な津波波形データベースの構築を目的としている。

これまでに、地下構造探査の結果に海底地震観測を加え、アウターライズ地震に関する潜在断層の同定とそのマッピングを行っており、それぞれの研究成果が海底トレース図として得られている。今後の津波即時解析に活かすデータベースにも着手しており、今後のリスク軽減に効果があるものと期待する。本研究によるアウターライズ地震による津波の評価データベースを、今後の地震防災にどのように公表し、活用していくかも考えて研究を実施していくことが重要である。

【令和3(2021)年度 検証結果】

検証結果	当初目標に対し、期待どおりの成果があった。
A	2011年東北地方太平洋沖地震後に海溝より海側で想定されるアウターライズ地震とその津波の評価のために、これまで未解明であった断層をマッピングし、シナリオ地震を想定した津波波形予測データベースを整備するという、当初の目的が達成された。 今後、日本海溝の陸側に整備されている海底地震観測網によるリアルタイム観測データを利用することによって津波の即時予測につなげることができるため、研究成果は学術のみならず、防災の面での意義も大きい。実際に、研究成果は地震調査研究推進本部に提供され、津波の評価に貢献している。